

下半期の行事と 浄敬寺ホームページ開設のお知らせ



じょうきょうじ

浄敬寺だより



発行日 令和二年六月一日 号外

1

【法語】

当時このごろ、ことのほかに疫癘とてひと死去す。これさらに疫癘によりてはじめて死するにはあらず。生まれはじめしよりしてさだまれる定業なり。

『御文』四帖目九通

【解説】

本願寺第八代蓮如上人が門徒へ送ったお手紙をまとめられた『御文』の中に、後に「疫癘」というタイトルの付けられたものがあります。蓮如上人のご在世の頃、今から六百年近く前になりますから、今のように医療は充実しておらず、ひとたび流行の病や飢饉が起これば、多くの方が命を落とされたのでしよう。それでも、疫病（感染症）となると、何か特別なことが起こってしまったかのように思ってしまうのが人間です。

この『御文』の記された背景は、ここ数か月の現在の世の中の状況と重なります。生まれた以上は授かった命をいつかお返ししなければならぬことは道理です。その事実を知らされた後、「どんなに罪業を抱えた凡夫であっても、われを一心にたのむ衆生を必ず救う」と、阿弥陀如来はおっしゃっておられると蓮如上人は記されています。

今ここに命があり、こうして息をしていることが、実は稀なことであったと知らされることで、日々の過ごし方が見直されるのではないでしょうか。情報が飛び交う今日だからこそ、雑多なものに振り回されずに、この身の事実や私にかけられた願いを確かめたいものです。

☆住職より☆

暖冬を喜んでいたのも束の間で、春早々新型コロナウイルスによる感染の広がりに日本だけでなく世界中がアツという間に飲み込まれてしまいました。ここ数ヶ月で世界がこんなになってしまふとは誰が想像したことでしょうか。人の動きが制限された中で、あらゆるものがストップしてしまい、世界経済も未曾有の危機に襲われています。繁栄を謳歌していたとも思われた世界が、こんなことになってしまふことを目の当たりにすると、砂上の楼閣に生きていた人間であったと思わざるを得ません。

こういう御時勢ですので、たまに「お寺さん、コロナウイルス退治のお経を上げてくださいよ」などと言われる方がおられます。冗談半分の話ではありますが、気持ちにはわからないでもありません。しかし、そんな話の中で親鸞聖人にまつわるお話を思い出します。聖人が生きられた鎌倉時代にも様々な疫病が民衆を苦しめたと言われています。聖人が越後での流罪を終え、常陸の国に向かわれる旅の途中、上野の国、左貫にて疫病で苦しむ人々の姿を目の当たりにし、衆生利益のために三部経の千部読誦を思い立たれます。しかし、四・五日で思い返して読むのを止め、常陸に向かわれたといひます。それは、念仏ひとつで救われると自ら

信じ、人に伝えていくことが仏恩に報いる事と信じていながら、何が不足でお経を読もうとしたのか。自らの心の奥底に、読経の功德で病を押さえ込もうとする、自力の計らいが生じていることを厳しく見つめられたのでした。仏教の真の救いを人々に説くこともせず、その教えが説かれているお経を道具にして、祈禱師のまねごとをしている自分自身の姿に愕然とされたと違いありません。病気は医学の力で克服していくしかありませんが、現在コロナウイルス感染が広がる中で、様々な差別や偏見が表沙汰になってきています。人間はある意味弱い生き物です。感染の恐怖を目の当たりにすると自分の物差しに合わない者は排除しようと思ふ心が生じます。しかし、他を排除しようと思ふ心は、いつかまた自分が排除されていく心でもあります。真宗は御同朋・御同行の心を何より大切にいただく教えです。現在の状況は遠からず収束すると思ひますが、こういう今だからこそ、私たちに願われてい

合掌

（住職）

☆庫裡便り

浄敬寺の日々の出来事から
坊守の所感をお伝えします。



◎ご門徒の皆様におかれましては見えないウイルスへの対処に心身ともにお疲れのことと拝察いたします。寺でも春彼岸の頃からお齋のお持ち帰り、寺の玄関に消毒液を置いたり、お客様にはマスクをして対応したり・・・と新型コロナウイルス感染症予防対策を続けて二カ月になりました。止む無く五月十九日に予定しておりました報恩講お引上げの法要も十月八日(木)に延期させていただきました。

◎このような状況の中ですが、昨年結婚し、里帰り出産で三月から帰省していた二女・千晶に、予定より二週間早く男児が誕生しました。そして、その十日後には秋田に嫁いだ三女・朋恵に第二子の長男が誕生しました。緊急事態宣言下の医療現場の厳しい状況の中で、無事に新しいいのちを授かったことに感謝して一日も早い事態の収束を心から願っています。

◎子どもたちは三月～五月の学校休校の日は、本堂でのお参りの後、旧内陣の座敷を寺子屋にして勉強していました。

◎四月に入学式を迎えた三男(弘信)は六年、四年の兄たちを追いかけながら、黄色いカバールを付けたランドセルで元気に登校しています。



(坊守)

☆真宗大谷派 永寶山 浄敬寺ホームページ

<https://jyokyoji-kashiwazaki.com/>



閲覧・検索方法

お手持ちのパソコン、スマートフォン、タブレット等にて

- ①PC 上記の URL を入力
- ②で上記の QR コードをスキャン(カメラで読み取る)
- ③検索エンジンに「浄敬寺」「柏崎浄敬寺」等入力
*スマホ・iPhone 等で見やすい作りになっていますが、通信料金の設定によっては高額になる場合がございますので、ご注意ください。

☆メールアドレス (変更ありません)

住職 tomi814@kisnet.or.jp

当院 minipapa@kisnet.or.jp

晴香 haru310@kisnet.or.jp

ご感想や励ましのメッセージをお寄せください。



☆ブログ

今後、ホームページ内で書かせていただきます。

☆浄敬寺ホームページの開設について
浄敬寺の御門徒の皆様へ、そして、遠方にお住まいの方や、日中のお勤めの関係で年中行事に参加の難しい方へのホットラインに：と、検討していたホームページ。この度の新型コロナウイルス感染症による一連の動きから、これから大事な情報発信方法であると思いましたが、開設することにしました。
当面は、浄敬寺年中行事に関するお知らせがメインかと思いますが、徐々に充実させていきたいと思っておりますので、ぜひご覧ください。

☆二〇二〇年後半の行事

(中止には取り消し線、変更等連絡事項には*)

木月十三日(土) 歎異抄をよむ会 午前九時

木月二十七日(土) 夏の法話会 十三時半

講師 佐野明弘師(石川県加賀市光園坊住職)

七月十四日(火) 盆参会(盆内) 両日とも十時半

十五日(水) 法話・勤行(一時間程度)

*時間短縮でお勤めします おときをお持ち帰りください

八月十日(日) 夏休み子どもの集い 午後四時

八月十三日~十六日 盂蘭盆会(お盆)

十三日・・ 午前六時より 本堂にて勤行

*お盆の棚経は例年通りお勤めいたします。

九月十二日(土) 歎異抄をよむ会

十月八日(木) 報恩講お引き上げ 午前十時

法話 今泉温資師

引き続き 勤行・おとき

「報恩講」は、
真宗門徒にとって
最も重要な年中行事
です

*五月十九日より延期しての厳修



十月十日(土) 歎異抄をよむ会 午前九時

十一月十四日(土) 歎異抄をよむ会 午前九時

十一月二十九日(日) しまい講 午前十時半

*法話・勤行・おときがあります

十二月十二日(土) 歎異抄をよむ会 午前九時

十二月十三日(日) 年末法話会・物故者追弔会 午後一時半

(講師未定)

* 定例法話会『歎異抄』をよむ会は、年内は中止させていただきます。二〇二一年一月より再開予定です。

* すべての行事において、三密を避ける対策を取ります。

六月一日現在の予定ですので、新型コロナウイルス感染症の状況によって、変更を余儀なくされる場合もございますが、ご承知おきください。

お盆とお正月に発行している浄敬寺便りですが、お見舞いと諸連絡を兼ねて発行させていただきました。新型コロナウイルスに関することだけでなく、情報化社会ゆえの悲しいニュースもあります。どうか一日一日を大切にお過ごしください。

「世のなか安穏なれ、仏法ひろまれ」

